

英語コーパス学会 March 15, 1998
JAEC S Newsletter No. 20

会長 齊藤俊雄

事務局 657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学国際文化学部 西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737

E-mail: (E-Mail address deleted)

URL [../index.html](#)

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

目次

1. 第 11 回大会のご案内
 2. 『英語コーパス研究』第 5 号について
 3. 新入会員紹介
 4. 事務局から
- ◆ 辞書学メーリングリスト開設
 - ◆ 在外研究報告
 - ◆ 新刊・近刊情報

1. 第 11 回大会のご案内

英語コーパス学会第 11 回大会は、4 月 18 日（土）に大手前女子短期大学（兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2 阪急電鉄伊丹線稲野駅下車 徒歩 2 分 / JR 福知山線猪名寺駅下車 徒歩 7 分）で開催されます。会場を提供して下さった大手前女子短期大学のご厚意と西村道信運営委員のご尽力に感謝いたします。今大会では研究発表 2 件と、「コーパスと辞書編集」

と題するシンポジウムが予定されております。詳細は同封のプログラム・レジュメをご覧ください。

また前回同様、午前中にワークショップを開催します。今回は、昨年夏に Windows95 対応のコーパス検索・分析ソフト TXTANA を公開された赤瀬川史朗氏に、同ソフトを利用したコーパス検索・分析の実習をお願いしました。開発者ご自身に解説していただきますので、中身の濃い、充実したワークショップが期待できそうです。参加ご希望の方は、あらかじめ事務局あてに、電子メール・FAX・郵便でお申し込みください。定員は 30 名(先着順)とさせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は 1,000 円)。

なお、会場は第 6 回例会 (1995 年 10 月) と同じところ です。大手前女子大学 (西宮市) とお間違えのないよう、念のため申し添えておきます。

2. 『英語コーパス研究』第 5 号について

編集委員会では、現在、『英語コーパス研究』第 5 号の編集作業に従事しています。第 5 号には、Graeme Kennedy 氏(Victoria University of Wellington)による特別寄稿論文、研究論文 4 篇、書評 1 篇、ソフトウェア紹介 1 篇が掲載されています。4 月 18 日の第 11 回大会当日には会員の皆様に配布できる予定です。ご期待下さい。

なお、大会ご欠席の方には後日郵送させていただきます。(編集委員会)

3. 新入会員紹介 (住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JA ECS Newsletter No. 19 発行以降の新入会員の方は次の通りです (3 月 5 日現在、敬称略) ・服部 真弓 (松江工業高等専門学校) (E-Mail address deleted)

・村田 和代 (奈良女子大学大学院) (E-Mail address deleted)

4. 事務局から

◇会費納入のお願い ・1998 年度会費 (一般 4,000 円、学生 3,000 円) を同封の郵便振替用紙にてお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

・大会会場でも会費の納入は可能ですが、受付が混雑することが予想されますので、郵便振

替による納入にご協力ください。

・1997年度会費未納の方は、1998年度分と合わせてお納めください（振替用紙にその旨記しております）。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、Newsletter等の送付を中止させていただきます。

・住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

◇郵便番号について 本年2月からの郵便番号7ケタ化については、事務局の方で対応いたしましたが、誤りが残っているかもしれません。今回お送りした封筒のあて名ラベルをご確認いただき、もし誤っているようであれば、事務局までお知らせください。◇『英語コーパス研究』バックナンバーについて『英語コーパス研究』の創刊号—第3号は在庫がなくなりました。ご了承下さい。☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ 辞書学メーリングリスト開設

島根大学 井上永幸

E-mail: (E-Mail address deleted)

辞書学のメーリングリストを開設しました。辞書学といった学問的な内容ばかりでなく、新しい辞書の紹介・辞書の中の記述についての議論・辞書にかかわるコーパスに関する情報・辞書にかかわる研究会・学会の告知・自薦・他薦を問わず辞書に関係ある出版・発表等の紹介など、気楽にいろいろと書き込んでいただければ幸いです。経済的な理由で、フリーのメールサーバー(EMWAC IMS Mailing List Server; European Microsoft Windows NT Academic Centre, Edinburgh University Computing Service) を使わせていただいております。作成にかかわられた方々に感謝申し上げます。

私自身の能力不足で、サポートに限界があるとも思いますが、ご助言・お気づきの点など、お気軽におっしゃっていただければ幸いです。

■メーリングリストへの参加方法

◎メーリングリストへの登録

lexicographer-request@lexis.edu.shimane-u.ac.jp 宛てに、本文に

SUBSCRIBE lexicographer

とだけ書いたメールを送ってください。すべて小文字でもかまいません。タイトルはあつて

もなくともかまいません。

◎投稿するときは

lexicographer@lexis.edu.shimane-u.ac.jp 宛てにメールを送ります。タイトルと本文の内容はご自由に。メーリングリストへコマンドを送るときとアドレスが異なりますのでご注意ください。

■その他の操作法

lexicographer-request@lexis.edu.shimane-u.ac.jp 宛てに、本文にコマンドだけを書いてメールを送ります。下の説明では、わかりやすくするためにコマンドを大文字にしてありますが、実際には大文字でも小文字でもかまいません。タイトルはあってもなくてもいいです。メーリングリストへ投稿するときとアドレスが異なりますのでご注意ください。

◎コマンドの種類

HELP

Produces this message

JOIN lexicographer

Subscribe to mailing list

LEAVE lexicographer

Unsubscribe from mailing list

STOP

Stop processing commands (eg to avoid

processing your signature)SUBSCRIBE lexicographer Subscribe to mailing list
UNSUBSCRIBE lexicographer Unsubscribe from mailing list

◎問い合わせ先: (E-Mail address deleted)または(E-Mail address deleted)まで。◆ 在外研究報告 : Amherst College におけるオンラインデータベース

同志社大学 西納春雄

オンラインデータベースの充実が進むにつれて、従来保存場所と価格が障壁となっていた資料を、大学や研究機関が購入できるようになってきました。私が昨年 8 月から赴任している Amherst College は、リベラルアーツの小規模な大学ですが、周辺の大学と提携して、積極的にオンラインデータベースを購入することで、大学の伝統に沿ったオンライン資料を充実させています。

現在 Amherst College で利用できる主要なデータベース、ゲートウェイの種類は 11 種類で、以下のとおりです。1)LEXIS-NEXIS, 2)Congressional Compass, 3)WebPAC, 4)Britannica Online, 5)FirstSearch, 6)OVID, 7)Project Muse, 8)SilverPlatter, 9)MathSciNet, 10)International Index to Music Periodicals, 11)GPO Access. このうち、1,4,5,9,10 は Amherst College 独自で購入しているもの、その他は周辺の大学と共同で購入しているものです。

Amherst College のデータベースは、リベラルアーツの伝統を堅持するこの大学の研究と教育の方針を反映していて、人文・社会・自然各分野をくまなく網羅しています。1,2,11 は、法律、経済、ビジネス、政府公文書の、3,4,5,6,7 は人文分野の、1,5,6,9 は自然科学系分野の、それぞれ広範な資料にアクセスすることができます。5 や 10 を経由すれば、医学や音楽の分野の資料まで入手することができます。

これらのデータベース（もちろんインターネットや図書館目録へのアクセスも含めて）は、教職員学生が等しく開かれており、専用線を経由して、あるいは電話線経由で、すべての機能が利用できます。全寮制（学生数 1600 人）の部屋にはすべて専用線が引かれているので、学生はコンピュータセンターに出向かなくとも、高速でオンラインサービスを楽しむことができます。

さらに、図書館は地域住民にも開放されているので、一般の市民も、図書の貸し出しはもちろんのこと、図書館内の情報端末を利用して、自由に上記資料を閲覧することができます。大学の情報資産を、大学関係者に限らず、広く社会に開こうとする実践がなされています。

◆ 新刊・近刊情報

神戸大学 西村秀夫

E-mail: (E-Mail address deleted)

最近出版されたコーパス言語学関係の研究書です（一部近刊予定を含む）。たまたま私の目に留まったものをリストアップしただけのもので、決して網羅的なものではありません。会員各位から補足情報をいただけると幸いです。

○和書 藤本和貴夫・木村健治編『言語文化学概論』（大阪大学出版会 1997年）[コーパス言語学についての1章を含む]

齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎編『英語コーパス言語学 基礎と実践』（研究社出版 1998年）

○洋書 Biber, Douglas et al. *Corpus Linguistics: Investigating language structure and use* (Cambridge Approaches to Linguistics) Cambridge University Press, 1998. (ISBN 0-521-49957-7 paper / 0-521-49622-5 cloth) Fries, Udo et al. (eds.) *From ?lfric to the New York Times: Studies in English Corpus Linguistics* (Language and Computers 19) Editions Rodopi, 1997. (ISBN 90-420-0200-X paper / 90-420-0219-0 cloth) Ljung, Magnus (ed.) *Corpus-based Studies in English: Papers from the seventeenth International Conference on English Language Research on Computerized Corpora (ICAME 17)* (Language and Computers 20) Editions Rodopi, 1997. (ISBN 90-420-0331-6 paper / 90-420-0341-3 cloth)

Hickey, Raymond et al. (eds.) *Tracing the Trail of Time: Proceedings from the Second Diachronic Corpora Workshop* (Language and Computers 18) Editions Rodopi, 1997. (ISBN 90-420-0209-3 paper / 90-420-0214-X cloth)

Rissanen, Matti et al. (eds.) *English in Transition: Corpus-based studies in linguistic variation and genre styles* (Topics in English Linguistics 23) Mouton de Gruyter, 1997. (ISBN 3-11-015632-6)

Rissanen, Matti et al. (eds.) *Grammaticalization at Work: Studies of long-term developments in English* (Topics in English Linguistics 24) Mouton de Gruyter, 1997. (ISBN 3-11-015631-8)

Wichman, Anne et al. (eds.) *Teaching and Language Corpora* (Applied Linguistics and

Language Study) Longman 1997. (ISBN 0-582-27609-8)

補足書誌はこちらです。

☆☆
☆☆☆☆☆☆

No 21

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室

TEL 0886-56-7129 FAX 0886-56-7112 (共通教育事務局)

E-mail: (E-Mail address deleted)

URL [../index.html](#)

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

目次

1. 第11回大会報告
 2. 会則の改正について
 3. 第12回大会の日程と研究発表募集について
 4. 『英語コーパス研究』第5号と編集委員長の交代について
 5. 『英語コーパス研究』第6号原稿募集について
 6. 東京支部の設立準備会について
 7. 新入会員紹介
 8. 寄贈刊行物の紹介
 9. 事務局から
- ◆ FrameNet 訪問
- ◆ ICAME 1998

1. 第 11 回大会報告

英語コーパス学会第 11 回大会は、4 月 18 日（土）に花水木が満開の大手前女子短期大学（兵庫県伊丹市）で開催され、約 100 名の参加者がありました。

恒例となっている午前中のワークショップでは《双方向型コンコーダンスソフト TXTANA を使ったコーパス検索》と題して、開発者の赤瀬川史朗氏（赤瀬川翻訳事務所）を中心として、初心者向けのコーパス検索の実習が行われ、約 40 名の参加者が熱心にコーパス検索に取り組んでいました。

午後の大会では村田和代さん（奈良女子大学大学院生）による「everybody/everyone を受ける代名詞について」と稲木昭子先生（追手門学院大学）による「付加文—CobuidDirect 利用の一研究」の研究発表 2 件と、南出康世先生（大阪女子大学）を司会に《コーパスと辞書編集》をテーマにシンポジウムが開かれました。このシンポジウムでは正保富三先生（龍谷大学）が「コーパスと 1 言語辞典—EFL/ESL 辞典を中心として」、井上永幸先生（島根大学）が「コーパスと 2 言語辞典—英和辞典を中心として」、飯塚利昭氏（大修館書店）が「コーパスと 2 言語辞典—ハイブリッド方式採用の和英辞典を中心として」と題して、長年の研究、あるいは辞書編集の現場での経験に基づいた貴重なお話を聞くことができ、予定の時刻を大幅に過ぎての閉会となりました。

大会終了後の懇親会にも 40 名以上の出席があり、会員同士の交流と情報交換で盛り上がりました。

大手前女子短期大学では 2 度目の大会開催になりましたが、今回も西村道信運営委員と大学の関係者の方々には本当にお世話になりました。また受付の事務については、今回も大阪大学大学院言語文化研究科の院生の方々に準備していただきました。紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

2. 会則の改正について

大会当日開催の総会で会則の改正が承認されました。改正の要点は、従来 1 つしかなかった会員の種類を細分化することで、本学会の会員は、1) 一般会員（学生会員を含む）、2) 団体会員（大学、研究所、図書館などの研究・教育団体）、3) 賛助会員（企業関係）、4) 名誉会員（本学会に貢献のあった個人）の 4 つになります。詳しくは同封の新会則をご覧ください。なお名誉会員は、第 10 回大会（1997 年 10 月 4 日開催）の特別講演者、Jan Svartvik (Lund University), Graeme Kennedy (Victoria University of Wellington) 両氏にさかのぼって適用されます。

3. 第12回大会の日程と研究発表募集について

◇ 1998年度秋の大会（第12回大会）は1998年10月10日（土）に椋山女学園大学（愛知県名古屋市）で開催されることになりました。名古屋駅から約20分で、交通の便もよい所ですので是非ご出席ください。

◇ 大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】1998年6月30日（火）

【提出物】題目と要旨（400～800字程度）

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】1998年7月上旬（予定）

【その他】1. 時間 発表30分＋質疑応答10分

2. 資格 本学会会員であること

◇ シンポジウム、ワークショップなどの企画についてアイデアをお寄せください。なお、ワークショップで使用するソフトウェアのインストールは、会場校の都合で、出来れば夏季休暇期間中をお願いしたいとのことです。

4. 『英語コーパス研究』第5号と編集委員長の交代について

『英語コーパス研究』第5号が完成、第11回大会に出席された会員には当日お渡ししました。出席されなかった会員にはこのニュースレターとともにお手元にお届けいたします。名誉会員である Graeme Kennedy 氏の特別寄稿を巻頭に、続いて研究論文4編、ソフトウェア紹介1編の構成となっています。

なお、今まで編集委員長として本誌編集の中心となって活躍されていた田畑智司先生（大阪大学）が退任し、後任を井上永幸先生（島根大学）にお願いしました。田畑先生、ご苦勞様でした。井上先生、よろしくお願ひいたします。

5. 『英語コーパス研究』第6号原稿募集について

『英語コーパス研究』第6号の原稿を次の要領で募集します。会員各位の積極的な投稿をお待ちしています。

【原稿の種類】

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究論文、研究ノート

2. コーパス紹介、ソフト紹介、書評、その他コーパス研究に有益な情報

【投稿申込締切】 6月30日(火)

(氏名、所属、原稿の種類とタイトルをお知らせください。)

【原稿提出締切】 9月30日(水)

(ハードコピー4部提出。フロッピーディスクは採用決定後提出。)

【原稿の長さ】

1. 研究論文

和文 35字×30行×15枚以内

英文 70ストローク×35行×15枚以内

(いずれも Abstract (英文)、注、書誌を含む)

2. 研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の
半分以下。

【書式】第5号所収の論文を参考にしてください。

詳細は、次の URL に掲載のスタイルシートを
ご確認ください。

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/style.html>

【採否通知】 11月中旬

【刊行予定】 1999年3月25日

6. 東京支部の設立準備会について

かねてより関東地区での活動をより活発にし、会員の獲得を目指すため東京支部を作っ
てはどうかと言う提案がなされていました。今回、運営委員の朝尾幸次郎先生(東海大学)
と山崎俊次先生(大東文化大学)のお二人を中心に設立準備のための会合を開くことになり
ました。具体的な日程、場所などは未定ですが、関東地区で関心をお持ちの会員の方は両先
生にご連絡ください。なお、会長と事務局から1名がこの会に出席する予定です。

7. 新入会員紹介 (住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JAECs Newsletter No. 20 発行以降の新入会員の方々は次の通りです。(5月31日現在)

・青木 恵(東京学芸大学大学院)

(E-Mail address deleted)

・赤須 薫（東洋大学）

(E-Mail address deleted)

・赤堀 志子（昭和女子大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・伊藤 田恵

(E-Mail address deleted)

・大上 正直（大阪外国語大学）

(E-Mail address deleted)

・奥野 浩子（弘前大学）

(E-Mail address deleted)

・門田 修平（関西学院大学）

(E-Mail address deleted)

・国守 伸子（東京大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・坂本 明裕（青森明の星短期大学）

(E-Mail address deleted)

・山東 資子（甲南女子大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・須賀 あゆみ（奈良女子大学）

(E-Mail address deleted)

・杉本 一潤（東海大学附属望星高等学校）

(E-Mail address deleted)

・堤 美佐子（神戸女学院大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・鳥飼 慎一郎（立教大学）

(E-Mail address deleted)

・中村 秩祥子（龍谷大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・夏目 和子（神戸市外国語大学学生）

(E-Mail address deleted)

・西川 眞由美（大阪女子大学大学院）

・野波 弘子（甲南女子大学大学院）

(E-Mail address deleted)

・浜嶋 聡（園田学園女子大学）

(E-Mail address deleted)

・東森 勲（神戸女学院大学）

(E-Mail address deleted)

・日 滋之（東京学芸大学附属世田谷中学校）

(E-Mail address deleted)

・村田 純一（神戸市外国語大学）

(E-Mail address deleted)

・吉岡 潤子（関西外国語大学大学院）

・Ronald, Jim（広島修道大学）

(E-Mail address deleted)

8. 寄贈刊行物の紹介

英語コーパス学会に次の刊行物の寄贈がありましたので紹介させていただきます。今後
もコーパス研究関係の図書・論文等を事務局にお送りくだされば、逐次掲載させていただきます

ます。

・『英語教育と英語研究』第15号 島根大学教育学部英語教育研究室 1998年3月

・『コンピュータコーパスを利用した英語発達史研究』平成9年度科学研究費補助金（重点領域研究(1)）研究成果報告書 1998年3月

[ご希望の方に配布しております。657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学国際文化学部 西村秀夫 (E-Mail address deleted)までご連絡ください]

9. 事務局から

(1)1997年度会計報告

1997年度の決算報告は別紙の通りで、総会において承認されました。

(2)1998年度予算案

年度の予算案は別紙の通り、総会において承認されました。

(3)会員名簿について

本年度版の会員名簿を第11回大会当日配布しましたが、訂正、住所・所属の変更などがありましたら、事務局までお知らせください。

(4) 会費納入のお願い

本年度会費未納の方には、郵便振替用紙を同封しておりますので、会費の納入をお願いします。年会費は一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円です。なお、2年連続で会費未納の会員にはニュースレターの送付停止などの措置をとらせて頂いておりますので、会費の納入をお忘れにならないようお願いいたします。

(5) 事務局の交代について

1996年以来、事務局を引き受けていただいていた西村秀夫先生（神戸大学）と、会計の任にあたっておられた梅咲敦子先生（帝塚山短期大学）が第11回大会の後、退任いたしました。お二人には、お忙しい中、長期にわたってお世話になり、ご苦勞様でした。

第11回大会以降の事務局は中村純作（徳島大学）が、会計は永尾智（香川大学）が担当しております。両名とも不慣れな仕事にとまどっておりますが、よろしくご協力のほどお願いいたします。

(6) その他

違いない。品詞や句構造のタグづけは相当程度に自動化されている。

現在、プロジェクトは 2 年目に入ったところで、ツールも充実し本格的な解析が進んでいる。ホームページは <http://www.icsi.berkeley.edu/~framenet> にあるので、詳細はそちらを参照されたい（なお、今回の渡航は文部省科学研究費補助金「『外国語としての日本語』辞書および教材作成の研究」によって可能となったことを記しておく）。

◆ ICAME 1998

徳島大学 中村純作

(E-Mail address deleted)

今年度の ICAME 大会が Queens University of Belfast の John Kirk 博士の主催により北アイルランドのニューキャッスルにおいて 5 月 20 日より 5 月 24 日まで開催される。105 名の参加者が世界各地から集まる予定で、65 件の研究発表と、8 件のハードウェア・ソフトウェアデモンストレーション、10 件のポスターによる研究発表が予定されている。（前日の Historical Corpora Workshop にも 26 名が参加、9 件の研究発表と Workshop on Tagging and Parsing Historical Corpora が行われることになっている。）

本年度の特徴は、従来の一般的なコーパス研究に加えて、BNC や Bank of English に関連したトピックを 1 つのセッションにまとめていることである。ちなみに、BNC に関連するセッションでは：

L. Burnard, "SARA/BNC Online."

H. M. Lehmann and G. Tottie, "Automatic Retrieval of Adverbial Relatives in the BNC."

J. Gerner, "Singular and Plural Pronouns as Anaphors of Indefinite Personal Pronouns in Spoken British English."

R. Facchinetti, "On the Evolving BE-GOING-TO Future."

S. Hoffman and H. M. Lehmann, "Collocational Evidence from BNC."

T. McEnergy, "Very Colloquial Language in the BNC."

などの発表者とタイトルが見られる。また、Birmingham and Bank of English と題されたセッションでは：

R. Krishnamurthy, "TRACTOR: the TELPI Research Archive of Computational Tools and Resources."

G. Barnbrook, "Saying What You Mean - Parsing Cobuild Definitions."

O. Mason, "Parameters of Collocation: The Word in the Centre of Gravity."

S. Blackwell, "Looking up 'look': Discourse Markers in the Bank of English."

W. Meijs, "On the Bank of English."

M. Stubbs, "Phraseological Tendencies in the Core Vocabulary of English."

などの研究発表が予定され、大型コーパスを使った研究が着々と進展している様子がか
がわれる。

☆☆
☆☆☆

No 22

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室

TEL 0886-56-7129 FAX 0886-56-7112 (共通教育事務室)

E-mail: (E-Mail address deleted)

URL ../index.html

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

目次

1. 第12回大会のご案内
2. 『英語コーパス研究』第6号原稿の応募状況について (編集委員より)
3. 東支部設立準備会について
4. 名誉会員証の発行について
5. 新入会員紹介
6. 名簿の訂正のお願い
7. 事務局から

◆ ICAME 1998 and Historical Corpora Workshop

1. 第12回大会のご案内 (プログラムは、こちらです)

英語コーパス学会第12回大会は、10月10日(土)に椋山女学園大学(名古屋市千種区星ヶ丘元町17-3 JR名古屋駅にて地下鉄東山線藤ヶ丘行に乗り換え20分、星ヶ丘駅下

車、?出口より徒歩 5 分。詳細は椋山女学園大学のホームページ [http:// www. sugiyama-u. ac. jp](http://www.sugiyama-u.ac.jp) を参照) で開催されます。会場を提供して下さった椋山女学園大学のご厚意と深谷輝彦・藤本和子両運営委員のご尽力に感謝いたします。

今大会では研究発表 7 件と、「コーパスと英語教育」と題するシンポジウムが予定されております。詳細は同封のプログラム・レジュメをご覧ください。研究発表の数が多いこともあって、今回は発表会場を 2 室準備しパラレルセッションを持つことにしました。シンポジウムにも朝尾幸次郎先生(東海大学)を中心に 5 人の講師をお招きすることができました。限られた時間ですが、中身の濃い、充実したシンポジウムが期待できそうです。

また前回同様、午前中にワークショップを開催します。今回は、Corpus Wizard, Dr. Count, Boreal 等のコーパス検索・分析ソフトを開発されてきた浜口崇氏に、これらのソフトを利用したコーパス検索・分析の実習をお願いしました。開発者ご自身に解説していただきますので、初心者にも分かりやすいワークショップになるものと思われます。また、参加者のレベルに合わせて相当高度な検索テクニックにも言及することが出来るとのこと。参加ご希望の方は、あらかじめ事務局あてに、電子メールあるいは郵便でお申し込みください。定員は 30 名(先着順)とさせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は 1,000 円)。

本大会は名古屋での初めての大会です。交通の便もよいので、出張の予定に加えていただき、是非ご参加下さい。

2. 『英語コーパス研究』第 6 号原稿の応募状況について(編集委員長より)

2 年間本誌の編集を中心に進めてこられました田畑智司先生(大阪大学)に代わりまして、第 6 号より本誌の編集に関わらせていただくことになりました井上永幸(島根大学)です。学会誌の編集は初めての経験でもあり、田畑先生をはじめとする他の編集委員や運営委員の方々はもとより、学会員の皆様のご支援ご協力をおもちまして、本誌をよりよいものにするよう微力ながら努めてゆく所存です。

さて、『英語コーパス研究』第 6 号の応募状況ですが、論文 7 件(J. Svartvik 氏のものを含む)、書評 2 件、海外レポート 1 件です。

なお、投稿申し込みをされなかった方でも 9 月の末までに原稿を提出いただければ、審査の対象となることが可能ですので、ぜひとも奮ってご投稿いただければ幸いです。

【原稿の種類】

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」その他コーパス研究に有益な情報

【原稿提出締切】 9月30日(水)

(ハードコピー4部提出; フロッピーディスクは採用決定後提出)

【原稿の長さ】

1. 研究論文

和文 35字×30行×15枚以内

英文 70ストローク×35行×15枚以内

(いずれも Abstract(英文)、注、書誌を含む)

2. 研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の半分以下。

【書式】第5号所収の論文を参考にしてください。

詳細は、次のURLに掲載のスタイルシートをご確認ください。

<http://www.lang.osaka.ac.jp/~tabata/style.html>

【採否通知】11月中旬

【刊行予定】1999年3月25日

【原稿提出先】

〒690-8504 松江市西川津町 1060

島根大学教育学部 英語科教育研究室

井上永幸

Tel & Fax: 0852-32-6278

3. 東支部設立準備会について

本学会の東日本地区での学会活動をより活発にするため、東支部を設立したらどうかという提案がかねてよりありました。前号でもお知らせしたように、この提案を実行に移すにはどうしたらよいかを話し合うための東支部設立準備会が7月4日大東文化大学板橋校舎で開かれ、朝尾幸次郎(東海大学)、新井洋一(中央大学)、塚本聡(日本大学)、山崎俊次(大東文化大学)の各先生方と、齊藤会長、事務局より中村が出席しました。

東京地区の会員拡大のためには、初心者、大学院生、中学校・高校の先生を含めた勉強会、ワークショップ等を開催したらよいのではないかと、コーパス編纂の手法、研究の手続き等を網羅した1週間くらいのコースを設定し、「人が何をを使って、何をやっているのか」を実習を通して学習する場、情報交換の場を提供できないか等が話し合われました。

来年4月の総会で東支部の発足について御審議ねがうわけですが、それまで準備会として活動を行いたい旨を10月の第12回大会での運営委員会にはかることになりました。準

備会としては、11月末および3月中旬に2度ほど研究会を開ければと考えています。このような準備会の活動を統括する世話人に朝尾先生、諸連絡・記録などを担当する補佐役に山崎先生をお願いすることになりました。

本学会の発展を目指した東支部の結成に関する御提案、御意見がありましたら事務局、あるいは上記の先生方までお寄せください。

4. 名誉会員証の発行について

4月の総会の決定に基づいて、昨年秋より懸案になっておりました名誉会員である Jan Svartvik, Graeme Kennedy 両先生に事務局より名誉会員証をお送りしました。昨年11月1日にさかのぼって発行いたしました。齊藤会長のところに丁重な礼状が届いております。今後とも、海外の著名なコーパス言語学者をお招きするとともに名誉会員になっていたきたいものです。

5. 新入会員紹介（住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください）

JAECS Newsletter No. 21 発行以降の新入会員の方は次の通りです（8月15日現在、敬称略）

長田 哲男（早稲田大学大学院）

(E-Mail address deleted)

金子 朝子（昭和女子大学）

(E-Mail address deleted)

小嶋 義勝（千葉県立長生高校）

(E-Mail address deleted)

6. 名簿の訂正のお願い（住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください）

すでにお知らせした会員の氏名、住所等に訂正がございます。事務局としては出来るだけ正確にお伝えするよう努力をしていますが、入力ミス等によりご迷惑をおかけしております。以下のようにご訂正下さい。

JAECS Newsletter No. 21 の新入会員国守伸子さんの姓は國森の誤りでした。同じく、西川眞由美さんの住所に住宅番号が抜けていました。正しくは高槻市上土室 4-5-1-501 です。

4月に配布しました名簿に以下の変更がありました。紙面の関係で変更後のもののみ記載致します。

◇住所の変更

岡田 啓 (関西外大)
木村 利夫 (鶴見大)
田島 松二 (九州大)
畠山 利一 (大阪国際大)
波多野満雄 (東洋大) 電話番号変更なし
山崎 聡 (千葉商科大)
吉田 悦子 (三重大)

◇所属の変更

田口 純 (筑紫女学園大学)
水谷 洋一(高知女子大学)

◇住所・所属の変更

上村 和美 (関西国際大学)
(E-Mail address deleted)
保坂 道雄 (日本大学)
メールアドレス変更無し
宮本 佳樹 (高松市立玉藻中学校)

◇電話番号追加

吉川 史子 (大阪大大学院)

◇メールアドレスの変更

岩下俊治 (明星大)
(E-Mail address deleted)
齊藤 俊雄 (姫路独協大)
(E-Mail address deleted)
地村 彰之 (広島大)
(E-Mail address deleted)
原子 智樹 (北海学園北見短大)
(E-Mail address deleted)

深谷 輝彦 (相山女学園大)

(E-Mail address deleted)

古田 八恵 (四国大)

(E-Mail address deleted)

吉村 由佳 (慶応大)

(E-Mail address deleted)

7. 事務局から

◇会費納入のお願い

1998年度会費(一般4,000円、学生3,000円)未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

1997年度会費未納の方は、1998年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、JAECS Newsletter等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

◇その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。最近ワークショップの内容がマンネリ化してきているとの意見もあり、新しい企画が待たれます。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

◆ICAME1998 and Historical Corpora Workshop

大東文化大学 山崎俊次

(E-Mail address deleted)

今年のICAME1998は、Dr John Kirk (The Queen's University of Belfast)の主催で5月20日から5月24日まで、北アイルランドのベルファーストから南約50kmにあるニューキャッスルで開催された。紛争地域であるにもかかわらず市内はいたって平穏で、会場の周りも長閑な田園地帯と閑静なリゾート海岸の広がる平和な土地に感じられたのは、一時

の旅行者の受ける表面的な印象でしかなかったのか。期間中、アイルランド人の悲願である平和に向けた国民投票(Referendum)が開催され、投票率と賛成票の高さがこの地域の問題の深さを如実に物語っていた。

この ICAME20 回大会に参加して感じられた印象を略述すると、まず参加している研究者と研究の分野に時代の変遷と新しい流れを感じた。ストックホルム大会の参加者はおよそ 80 名で「親しい仲間の年中行事」の様相を呈していたが、今回は参加費 £ 400 程度にもかかわらず、100 名を超える参加者があり、特に分析ソフトの開発や研究発表に若い研究者の参加が多く、所謂” The Gang of Four” の中で今回参加したのは Prof J. Leech のみであったのはコーパス言語学の研究における時代の変遷を感じた。そしてタイトルにあるように、Historical Corpora の研究部会は本大会の開始前の 5 月 19 日からすでに開始されていて分離された学会の風であった。

大型コーパスの BNC や Bank of English は、別々にセッションがまとめられていた。BNC では “Putting it crudely: Very Colloquial Speech in the BNC” , “Singular and Plural Pronouns as Anaphors of Indefinite Personal Pronouns in Spoken British English” , “Progressive and Conservative Modern British Dialects: Evidence from the BNC” , “Wasn’ t/Weren’ t Generalisation in Present-Day English: Regional Variation and the BNC” といった spoken corpus と dialectology に関する発表が多かったことと、ドイツやスイスといったヨーロッパの国々からの発表者が多かったのが特に目に付いた。しかし COBUILD のセッションでは 5 件とも University of Birmingham からの発表者であったのが特徴付けられる。国別の参加では、英国の 33 人は別として、スウェーデンの 20 人、ドイツの 10 人、フィンランドの 8 人、米国とノルウェーがそれぞれ 5 人等が多い参加国で、日本からは 2 人であった。中村純作先生の “Semantic Universe of the LOB Corpus: Structure of the Corpus Based upon the Distributions of Verbs, Nouns and Adjectives” にはたくさんの参加者があった。山崎は Prof. Kennedy と “The Influence of Maori in the New Zealand English Lexicon” という題で社会言語学的な観点から共同発表した。今後さらに日本からのコーパス言語学の情報発信の必要性を痛感した。

(事務局より： 御参考までに、オックスフォード大学 Lou Bernard のホームページ ([http:// user.ox.ac.uk/~lou/Reports/9805icame.html](http://user.ox.ac.uk/~lou/Reports/9805icame.html))に彼の会議全体にわたる個人的なコメントが載っています。 なお、この会議のプロシーディングズは来年 Rodopi から出版される予定です。来年の大会は、同時期に Freiburg 大学の Christian Mair の主催で開催されます。)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

No 23

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室

TEL 0886-56-7129 FAX 0886-56-7112 (共通教育事務局)

E-mail: (E-Mail address deleted)

URL [../index.html](#)

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

目次

1. 第12回大会報告
2. 『英語コーパス研究』編集委員会より
3. 第13回大会の日程と研究発表募集について
4. JAECS-MLの開設について
5. 東支部設立準備会の今後の活動について
6. 新入会員紹介
7. 名簿の訂正のお願い
8. 事務局から

FORUM

- ◆ The International Corpus of English の英国英語版 (ICE-GB)完成
- ◆ 新刊情報

1. 第 12 回大会報告

英語コーパス学会第 12 回大会は、10 月 10 日（土）に椋山女学園大学で開催されました。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは会員 82 名、新入会員 7 名、当日会員 9 名の合計 98 名の出席がありました。

午前中のワークショップでは、Corpus Wizard, Dr. Count, Boreal 等のコーパス検索・分析ソフトを開発されてきた浜口崇氏が、「テキスト処理：検索と簡単な計数処理の実際」と題してコーパス検索の実習を行ない、32 名の参加者がありました。なお当日使用されたレジメは、ウェブ上 <http://www2d.biglobe.ne.jp/~htakashi/indexj2.html> の浜口氏の「ハンドアウト館」で参照することができます。

午後の大会では研究発表の数が多いこともあって、発表会場を 2 室準備しパラレルセッションを持ちました。第 1 室では、國森伸子さん（東京大学院生）の「現代英語における ed-adjective 形成の条件」、久保田俊彦先生（明治大学）の「英語における SVCO パターンについて」、岡田啓先生（関西外国語大学）の「go ~ing 構文の ~ing のところに来る動詞について」、新井洋一先生（中央大学）の「否定強意副詞（句）の統語的特性」の語法・文法関係の 4 件の研究発表が行われました。第 2 室では長田哲男さん（早稲田大学院生）と左良木昌さん（左良木機械翻訳研究室）の「語源情報を用いたテキスト分析」、高橋薫先生（豊田工業高等専門学校）の「多変量解析法による因子の言語的解釈について：LOB Corpus における第 3 因子の解釈」、西村公正先生（関西外国語大学短期大学部）の「日英翻訳で見る曖昧な日本語の『など（等々）』の 3 件の研究発表がありました。今後も、今回のように数多くの意欲的な研究発表で、事務局も開催校も悲鳴を上げる状態が続いて欲しいものです。

「コーパスと英語教育」と題するシンポジウムでは朝尾幸次郎先生（東海大学）を中心に 5 人の講師をお招きすることができました。限られた時間の中で、朝尾幸次郎先生には「コーパスの英語教育への利用の歴史」、杉浦正利先生（名古屋大学）には「コーパスによる学習支援システム」、尾関修治先生（中部大学）には「学習者コーパスの構築」、野澤和典先生（立命館大学）には「学習者コーパスによる事例研究」、原田邦彦先生（名古屋外国語大学）には「第二言語習得と学習者コーパス」のタイトルで各々御発表頂き、中身の濃い、充実したシンポジウムを開くことができました。

大会終了後の懇親会には 34 名の出席があり、会員同士の交流と情報交換で盛り上がりました。おなじ時間帯に、来年の英文学会のシンポジウムに向けて別の会合が開かれていたので、人数的にも大成功だと思います。

名古屋では初めての大会でしたが、無事、成功裡に終えることができました。会場を提供してくださった椋山女学園大学のご厚意に感謝致します。特に深谷輝彦・藤本和子両運営委員、会員の三木邦弘先生には、大変お世話になりました。この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

2. 『英語コーパス研究』編集委員会より

『英語コーパス研究』第 6 号 (1999)へのたくさんのご投稿をありがとうございました。J. Svartvik 氏の特別寄稿論文の他、論文 7 編、書評 2 編、海外レポート 2 編が寄せられ、現在査読を進めております。会員の皆様方のご協力をもちましてよりよい内容のものにしたいと考えておりますので、引き続きいっそうのご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

3. 第 13 回大会の日程と研究発表募集について

◇1999 年度の春の大会 (第 13 回大会) は 4 月 17 日 (土) に四国大学 (徳島市) で開催されることになりました。初めて四国で開催される大会ですが、本年 4 月明石大橋が開通したこともあり、関西地区からも日帰りが可能になりました。ちなみに、本州側の舞子からはバスで 1 時間足らずで徳島駅に着きます。東京地区からは飛行機でこれも 1 時間足らずで徳島空港に着きます。2 カ月前の「早割り」制度を利用すると、季節にもよりますが、最大 50%の割引があり、東京から 2 万円強で往復可能です。是非、今から出張の予定に組み込んで頂きたいと思っております。

◇大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】 1998 年 12 月 15 日 (火)

【提出物】 題目と要旨 (800?1200 字程度)

【内 容】 本学会にふさわしい、コーパス利用・
コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】 1999 年 1 月上旬 (予定)

【その他】 1. 時間 発表 30 分+質疑応答 10 分
(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること

◇シンポジウム、ワークショップなどの企画についてアイデアをお寄せください。特にワークショップに関しては、最近マンネリ化しているとの意見も聞かれますので、よろしく願います。

4. JAECS-ML の開設について

本学会専用のメーリングリストを開設することになりましたのでご案内いたします。去る 10 月の運営委員会で本学会の正式なメーリングリストとして設置が決まったものです。

目的は会員相互の情報交換ならびに、(将来の)学会事務のペーパーレス化です。参加者は本学会の会員に限ります。また、会員でなくなった場合にはリストから除かれます。リストへの登録ならびに登録取消しは12月10日以降つぎの Web page にて随時行って下さい。

<http://lexis.ilcs.hokudai.ac.jp/jaeacs-ml/>

なお、詳細に関しては後日、事務局よりメールでお知らせしたいと思います。

5. 東支部設立準備会の今後の活動について

JAECS Newsletter No. 22 でお知らせした東京地区での活動をより活発にするための東支部設立準備会の今後の活動予定が10月の運営委員会にはかられました。当初予定していた11月の東京地区での勉強会あるいはワークショップは都合で取りやめになりましたが、3月に同様の企画を予定しております。また、来年度の秋の大会をできれば東京地区で開催できないかとの運営委員会の意向を受けて、東支部設立準備会がその準備にあたることになりました。この準備会の活動に興味をお持ちの方は、朝尾幸次郎先生(東海大学 (E-Mail address deleted))あるいは山崎俊治先生(大東文化大学 Email: (E-Mail address deleted))にご連絡ください。

6. 新入会員紹介 (住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JAECS Newsletter No. 22 発行以降の新入会員の方は次の通りです(11月15日現在、敬称略)

浅原 京子 (富山商船高等専門学校)
(E-Mail address deleted)

越智 敏之 (非常勤講師)
(E-Mail address deleted)

木村 雅俊 (都留文科大学大学院)
(E-Mail address deleted)

酒井 成夫 (桜美林大学)

都築 雅子 (中京大学)
(E-Mail address deleted)

中野 香 (山陽学園大学)

(E-Mail address deleted)

柳 朋宏 (名古屋大学大学院)

(E-Mail address deleted)

7. 名簿の訂正のお願い (住所・電話番号の変更は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

すでにお知らせした会員の氏名、住所等に訂正がございます。事務局としては出来るだけ正確にお伝えするよう努力をしていますが、入力ミス等によりご迷惑をおかけしております。以下のようにご訂正下さい。

◇住所の変更

高見 敏子

水谷 洋一

山下 徹

◇住所・メールアドレスの変更

尾崎 久男

(E-Mail address deleted)

◇住所・所属の変更

西本 まり子 (帝京高等看護学院)

◇電話番号の訂正

大津 智彦

◇メールアドレスの変更

新井 恭子

(E-Mail address deleted)

瀬良 晴子

(E-Mail address deleted)

齊藤 俊雄

(E-Mail address deleted)

三木 隆之

(E-Mail address deleted)

水島 孝司

(E-Mail address deleted)

8. 事務局から

◇会費納入のお願い

1998年度会費（一般 4,000 円、学生 3,000 円）未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

今年度分未納者は10月現在で24名、内1997年度も未納の方が4名います。1997年度会費未納の方は、1998年度分と合わせてお納めください（振替用紙にその旨記しております）。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、JAECS Newsletter 等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

◇入会申込書の JAECS ホームページへのアップロードについて

新しく本学会に入会する場合には、事務局に入会申込書を請求し、再び事務局に郵送する手続きをとっていましたが、事務局の事務軽減のため、入会申込書を JAECS ホームページにアップロードすることにしました。今後、新しく入会を希望する方には、従来の方式に加えて、ホームページよりダウンロードした申込書のハードコピーをとった上で、直筆で署名、事務局に郵送していただくことも可能になります。新しい会員をお誘いする時には、このことも付け加えて頂ければ幸いです。

◇JAECS の Logotype 募集について

名誉会員証を発行したり、外国との郵便のやり取りとか、Newsletter の発行などに際して JAECS の Logotype を制定してはどうかとの意見が、役員会ででました。そこで、会員の皆さまからデザインを募集したいと思います。グラフィックスやイラストに興味をお持ちの方、是非、ご応募下さい。期限は別に設けませんが、学会のホームページを飾ったり、学会の公式文書を飾る Logo のデザインです。事務局まで、メールの添付文書（Word97 の doc ファイル）としてお送り下さい。

◇JAECS の発音について

本学会の英文名のアクロニム JAECS には[jːeks] [jeiks][ji:ks]などいくつかの発音が可

能です。そこで、信頼のおけるある英語母語話者に相談してみました。[jeiks]は俗語の“john”などと同じ意味を持つ語と同音になるので相応しくないが、後の2つはどちらでもよいだろうとのでした。事務局としては、発音の簡便さから[ji:ks]の方を採用してはどうかとの意見ですが、会員諸氏のご意見を伺います。どうしても、こちらの方が良いという強い御意見がある場合は別として、できればこの線で発音の統一をしたいと思います。

◇その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。最近ワークショップの内容がマンネリ化してきているとの意見もあり、新しい企画が待たれます。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

◆ The International Corpus of English の英国英語版 (ICE-GB)完成

姫路獨協大学 齊藤俊雄 (E-Mail address deleted)

もうご存知の方も多いかと思いますが、University College London の The Survey of English Usage (SEU)が編纂を進めてきた ICE-GB が完成し、CD-ROM(Windows)で配布され始めました。Greenbaum 教授の急逝という不幸を乗り越えてよく完成したものと、心から敬意を表したいと思います。

ICE は 18 の地域変種よりなるコーパスですが、他の変種に先駆けて完成したものです。これは現代英国英語の 100 万語のコーパスで、500 のテキスト（話し言葉 300, 書き言葉 200）で構成され、宣伝文句によれば、"fully annotated, tagged, parsed and checked by linguists"ということです。

この CD-ROM には、SEU で開発された ICECUP (Version 3.0)という検索プログラムが付属しております。頒価は、個人ユーザーは 249 ポンド(約 5 万円強)です。(高いのか、安いのか?)なお、この ICE-GB は現在、サンプル・コーパス (10 テキスト、2 万語) と ICECUP を SEU のホームページ (<http://www.ucl.ac.uk/english-usage>)から無料でダウンロードできます。是非お試し下さい。

◆新刊情報

徳島大学 中村純作 (E-Mail address deleted)

本学会会員の高家秀史先生（岡山県立朝日高校）と須賀廣先生（岡山県立倉敷天城高校）の共著『実践コーパス言語学：英語教師のインターネット活用』が今月中旬桐原ユニより出版されました。

第1章「英語教師とコーパス」から始まり、コーパス言語学の理論的裏付け、さまざまなコーパスの紹介とインターネットを利用した検索の実際、コーパスの編纂法などを網羅し、これからコーパスを英語教育に利用したいと思っている初心者向けのやさしい入門書となっています。本年3月に出版された齊藤俊雄他編『英語コーパス言語学：基礎と実践』とオーバーラップする部分もありますが、第1章に見られるような高等学校の英語教師としての切り口はユニークで、楽しく読ませて頂きました。

本学会会員である井上幸永先生（島根大学）が「巻末の資料や本文中にちりばめられた情報源は研究者にも有用」と推薦されているように、我々にとっても示唆に富む部分が少なくありません。COLT(The Bergen Corpus of London Teenage Language)へのアクセス法や Nagoya Spoken English Corpus 94 などの情報は、筆者にとっても有益でした。会員諸氏にも是非一読されんことをお勧めしたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆